

5 木造住宅耐震診断結果報告書作成要領

(様式1)

受付番号・受付年月日
市町で記入する。

【申込者用・市町用・受託団体用・診断員用】

市町名 - 受付番号： ○○ 市町 - ○○○号

市町受付年月日 平成 年 月 日

木造住宅耐震診断結果報告書

申込者氏名
木造住宅耐震診断事業補助金交付の申込み
を行った者の氏名を記入する。

診断申込者 _____ 様
(診断申込者へ)
報告年月日 平成 年 月 日
(評価機関へ)
報告年月日 平成 年 月 日
調査年月日 平成 年 月 日

報告年月日
報告書を、それぞれ評価機関、及び診断申込者に提出する日
を記入する。(評価機関に提出する段階では、診断申込者への
報告年月日は空欄。)
調査年月日
現地調査を実施した日を記入する。

設計事務所名等
設計事務所名等を記入し、診断技術者は捺印をする。

建築士事務所名称						
建築士事務所種別	一級建築士事務所	二級建築士事務所	木造建築士事務所			
建築士事務所登録年月日番号	平成	年	月	日	第	号
耐震診断事務所登録年月日番号	平成	年	月	日	第	号
耐震診断技術者氏名					印	
耐震診断技術者名簿登録年月日	平成	年	月	日	第	号

審査欄	
-----	--

総合評価	市町名		受付番号
------	-----	--	------

(a) 地盤・基礎

地盤	対 策	記入欄(印)	注意事項
よい			
普通			
悪い (埋立地、盛り土、軟弱地盤)	表層の地盤改良を行っている		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 地盤・地形の評価 ・「聞き取り調査チェックリスト」、「地盤・地形状況の確認リスト」により結果を該当箇所に記入し、「参考4 立地条件の注意事項例」を参考に、注意事項欄に記入する。 </div>
	杭基礎である		
	特別な対策を行っていない		

地形	対 策	記入欄(印)	注意事項
がけ地 急斜面	平坦・普通		
	コンクリート擁壁		
	石積		
	特別な対策を行っていない		

基礎形式	状 態	記入欄(印)	注意事項
鉄筋コンクリート基礎	健全		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 基礎の評価 ・「聞き取り調査チェックリスト」で確認して基礎形式結果を参考にし、該当する箇所に 印を記入し、「参考5 基礎の注意事項例」を参考に、注意事項欄に記入する。 </div>
	ひび割れが生じている		
無筋コンクリート基礎	健全		
	ひび割れが生じている		
玉石基礎	足固めあり		
	足固めなし		
その他(ブロック基礎等)			

(b) 上部構造

階	方 向	上部構造 評点	判 定
2F	X		
	Y		
1F	X		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 上部構造の評価 算出した「上部構造の評点」及び「判定結果」を転記する。 </div>
	Y		

上部構造評点	判 定
1.5以上	倒壊しない
1.0以上～1.5未満	一応倒壊しない
0.7以上～1.0未満	倒壊する可能性がある
0.7未満	倒壊する可能性が高い

建物概要調査表 A				市町名	受付番号
調査年月日	平成	年	月	日	年
申込者氏名				用途	<input type="radio"/> 専用住宅
申込者住所					<input type="radio"/> 併用住宅
郵便番号					<input type="radio"/> その他
電話					
所有区分	<input type="radio"/> 持家	<input type="radio"/> 借家	柱半間スパン・柱小径		
建物名称				半間スパン	cm
建物所在地				柱小径	cm
竣工年	<input type="radio"/> 明治 <input type="radio"/> 大正 <input type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成			年	
築年数	年		年		
階数	地下	階	地上	階	
構造	<input type="checkbox"/>	木造在来軸組工法			
	<input type="checkbox"/>	一部RC、ブロック造(浴室のみ)			
	<input type="checkbox"/>	地下室と見なされる車庫を有す			
	<input type="checkbox"/>	平面的、断面的に異種構造部分を有するが、木造部分で独立している。			
構造的特記事項		屋根材料	<input type="checkbox"/>	瓦葺き(重い屋根)	
			<input type="checkbox"/>	スレート瓦(重い屋根)	
			<input type="checkbox"/>	鉄板葺き(軽い)	
		外壁材料	<input type="checkbox"/>	シングル葺き(軽い)	
			<input type="checkbox"/>	角波鉄板	
			<input type="checkbox"/>	板張り、合板張り	
樋の種類	<input type="checkbox"/>	ラスモルタル			
	<input type="checkbox"/>	窯業系サイディング			
	<input type="checkbox"/>	金属サイディング			
露出した躯体	<input type="checkbox"/>	土塗壁			
	<input type="checkbox"/>	塩ビ			
	<input type="checkbox"/>	鉄板			
露出した躯体	<input type="checkbox"/>	梁			
	<input type="checkbox"/>	柱			
	<input type="checkbox"/>	土台			
異種構造部分は、本診断対象外であり、木造部分のみ検討します。					
小屋裏利用	<input type="radio"/> 有り	2階床面積	面積(m ²)	1階短辺方向スパン	スパン m
	<input type="radio"/> 無し	1階床面積	m ²	<input type="radio"/> 6m以上	
		地階床面積	m ²	<input type="radio"/> 4m以上6m未満	
		延べ床面積	m ²	<input type="radio"/> 4m未満	

増築・改造等工事	工事種別	工事の有無			施工年	工事内容
		<input type="radio"/>	有	<input type="radio"/>	無	
		<input type="radio"/>	有	<input type="radio"/>	無	
		<input type="radio"/>	有	<input type="radio"/>	無	
		<input type="radio"/>	有	<input type="radio"/>	無	
	特記事項					
災害履歴	<input type="checkbox"/>	床下浸水、床上浸水	住宅金融公庫	<input type="radio"/>	1	金融公庫融資有り
	<input type="checkbox"/>	火災、ボヤ	融資有無	<input type="radio"/>	2	金融公庫融資無し
設計図書の有無	<input type="radio"/>	1 図面があり、筋かい・接合金物の配置記入有り(平面図内に記入有り)				
	<input type="radio"/>	2 図面はあるが、筋かい・接合金物の配置記入無し(立面のみ記入含む)				
	<input type="radio"/>	3 図面はない				
整備図面	<input type="checkbox"/> 平面図 <input type="checkbox"/> 立面図 <input type="checkbox"/> 矩計図 <input type="checkbox"/> 梁伏図 <input type="checkbox"/> 基礎伏図 <input type="checkbox"/> 軸組図					

【建物概要調査表Aの記入要領】

- 依頼者氏名等
 - ・依頼者氏名を入力する。
 - ・所有区分で借家とチェックした場合、建物名称、建物所在地の欄を記入する。持家で、依頼者住所と同じ場合は入力不要。
- 竣工年
 - ・建物の竣工年を記載する。
- 階数
 - ・階数を入力する。診断対象外であるが、地下階数がある場合は記入する。
- 構造
 - ・該当項目にチェックを入れる。複数にチェックを入れてもよい(診断計算には影響しない)。
- 構造的特記事項
 - ・チェックリストで表せない事項がある場合に入力する。
- 用途
 - ・併用住宅の場合は、併用部分用途欄に併用部分の用途を1階店舗、1階事務所等と記入する。
- 柱ピッチ、柱小径
 - ・標準的なモジュールとなる柱の間隔(半間の寸法)と代表的な居室周りの柱小径を記入する。
- 屋根材料
 - ・4つの項目は、1階と2階の屋根が違う場合を想定しており、1箇所でも重い屋根にチェックが入ると、重い屋根として計算する。
- 外壁材料・樋の種類
 - ・劣化度の低減係数の算出等に必要であり、存在している部材全てにチェックを入れる。
- 露出した躯体の有無
 - ・劣化度の低減係数の算出等に必要であり、存在している部材があればチェックを入れる。
- 床面積
 - ・各階床面積を記入する。
- 短辺方向スパン
 - ・形状割増係数の算定に必要であり、1階の短辺方向のスパンを記入する。
- 増築・改造等工事
 - ・有無についてチェックを入れる。また、工事内容についても記入する。
- 災害履歴
 - ・チェックが入った場合は当該部分の調査を行うものとする。
 - ・床下、床上浸水の場合は、土台の腐朽、白蟻について調査を行う。
 - ・火災、ボヤの場合は当該部分の構造材の状況を調査する。
- 住宅金融公庫融資の有無
 - ・工事の信頼性を示す目安として、調査時の基礎資料となる。
- 設計図書の有無
 - ・設計図書は建物を把握できること以外に、筋かいの有無、配置を調査する重要な資料となる。
 - ・保存されている図面の種類をチェックする。

建物概要調査表 B	市町名	受付番号
-----------	-----	------

目視調査可能部分において記入する

部位等		調査内容	調査実施・不可		
主要な軸組等	損部材の断面欠損・接合金物	大きな欠き込み、割れの有無	<input type="radio"/> 欠き込み有	<input type="radio"/> 割れ有	
			<input type="radio"/> 欠き込み無	<input type="radio"/> 割れ無	
			<input type="radio"/> 調査不可	<input type="radio"/> 調査不可	
		柱頭・柱脚接合部の仕様	<input type="radio"/> 金物有	<input type="radio"/> H12建告第1460号に適合する仕様	<input type="radio"/> 羽子板ボルト、山形プレートVP、かど金物CP-T、CP-L、込み栓
				<input type="radio"/> ぼぞ差し、釘打ち、かすがい等（構面の両端が通し柱の場合）	<input type="radio"/> ぼぞ差し、釘打ち、かすがい等
				<input type="radio"/> 金物無	<input type="radio"/> 調査不可
床下部分	足固め、根がらみ等で固められているか	<input type="radio"/> 足固め有	布基礎、土台のない形式の場合に調査		
筋かい端部	筋かい端部の金物の有無	<input type="radio"/> 金物あり	H12建告第1460号に適合する仕様 金物のある場合は「金物あり」にチェック		
		<input type="radio"/> 金物なし			
		<input type="radio"/> 調査不可			
水平剛性の確保	床面・小屋面 接合方法	床仕様区分（火打ちの有無、床板は合板か、金物は充分使用されているか）	<input type="radio"/> 火打ち有り	<input type="radio"/> 金物有	
			<input type="radio"/> 火打ち無し	<input type="radio"/> 金物無	
			<input type="radio"/> 調査不可		
			<input type="radio"/> 合板有り		
			<input type="radio"/> 合板無し		
			<input type="radio"/> 調査不可		
吹き抜き分抜	吹き抜け面積、吹き抜け部分の対策、補強の有無	<input type="radio"/> 吹き抜け有	縦	m	
		<input type="radio"/> 吹き抜け無	横	m	
下屋、増築部	母屋との接合部分で金物が充分使用されているか	<input type="radio"/> 金物有			
		<input type="radio"/> 金物無			
		<input type="radio"/> 調査不可			
ブロック塀	1.2mを超えるブロック塀の有無	<input type="radio"/> 1.2mを超えるブロック塀無し			
		<input type="radio"/> 1.2mを超えるブロック塀に控え壁有り			
		<input type="radio"/> 1.2mを超えるブロック塀に控え壁無し			
擁壁・がけの状況	傾斜、亀裂、ハラミの有無	<input type="checkbox"/> 擁壁無し	<input type="checkbox"/> がけ無し		
		<input type="checkbox"/> 擁壁傾斜有	<input type="checkbox"/> がけ壁傾斜有		
		<input type="checkbox"/> 擁壁亀裂有	<input type="checkbox"/> がけ壁亀裂有		
		<input type="checkbox"/> 擁壁ハラミ有	<input type="checkbox"/> がけ壁ハラミ有		
備考					

【建物概要調査表Bの記入要領】

構造耐力上主要な軸組等

- ・梁端部下端切り欠きの有無、割れの有無、金物の有無及び金物の仕様を調べる。
- ・金物が無い場合、錆びている場合、あるいはゆるんでいる場合等の問題がないか調べる。

床下部分

- ・調査は床下点検孔や床下収納等がある場合に目視で行う。
- ・足固め、根がらみは布基礎、土台のない基礎形式の場合に調査する。

筋かい端部

- ・筋かい端部の金物の有無を調べる。なお、H12建告第1460号に適合する仕様の場合のみ、金物ありにチェックすることとする。

水平剛性の確保

- ・床面、小屋面に火打ち梁が施工されているか、ボルトで止められているか、または構造用合板が施工されているか調査する。
- ・火打ち梁については、ボルト止めでない場合や接合部に隙間がある場合等、問題がないか調査する。

吹き抜け部分

- ・建物の弱点となる可能性がある部分であり、吹き抜けの有無、及びスパンを記入する。（4m以上の吹き抜けがある場合に、床仕様を一段階下げて適用する必要がある。）

下屋、増築部分

- ・主屋と接合された部分の下屋、増築部外側の桁材の接合状況を調査する。金物で緊結されず、桁材が主屋側で柱により支持されていない場合は、脱落する危険性がある。

ブロック塀

- ・基準法では、1.2mを超えるブロック塀には控え壁を設けることになっているが、その控え壁があるかないかを調べる。
- ・今回の調査では、鉄筋の配筋状態や、基礎形状の確認が出来ないために安全性の判断は行えない。

擁壁・がけ

- ・擁壁の傾斜や亀裂が認められた場合、総合評価の地形の注意事項欄に状況を記入する。

備考

- ・上記の調査項目において、特殊な事項がある場合、特に知らせる事項がある場合に記入する。

聞き取り調査チェックリスト

筋かいの有無	<input type="radio"/> 1 筋かいは入っていた	土塗り壁の有無	<input type="radio"/> 1 土塗り壁有り
	<input type="radio"/> 2 筋かいは入っていない		<input type="radio"/> 2 土塗り壁無し
	<input type="radio"/> 3 筋かいは不明		<input type="radio"/> 3 土塗り壁は不明
	筋かいのサイズ <input type="text"/> cm x <input type="text"/> cm		壁の厚さ <input type="text"/> cm
	<input type="radio"/> 1 基礎は鉄筋コンクリート布基礎	鉄筋の有無が不明な場合は無筋コンクリート布基礎として扱う。	
	<input type="radio"/> 2 基礎は無筋コンクリート布基礎		
	<input type="radio"/> 3 基礎は玉石、石積み、ブロック積み		
	<input type="radio"/> 4 基礎形式は不明		
白蟻	<input type="radio"/> 1 白蟻被害は無い。		
	<input type="radio"/> 2 白蟻被害を受けたが、駆除し、被害部分の補強を行った。		
	<input type="radio"/> 3 白蟻被害を受けたが、駆除のみ行った。		
	<input type="radio"/> 4 白蟻被害を受けている。		
	<input type="radio"/> 5 白蟻については記憶がない。		
地盤の状況	<input type="radio"/> 1 大規模な造成工事（転圧・地盤改良）による埋立地及び盛土地		
	<input type="radio"/> 2 丘陵地の盛土地		
	<input type="radio"/> 3 海・川・池・沼・水田等の埋立地		
	<input type="radio"/> 4 地盤の状況は不明である。		
地形の状況	<input type="radio"/> 1 過去に山崩れ・がけ崩れ等があった（隣地含む）		
	<input type="radio"/> 2 地すべりがあった		
	<input type="radio"/> 3 地盤が沈下した		
その他事項	<input type="checkbox"/> 大型車通行時に揺れが大きい（地盤 非常に悪い）		
	<input type="checkbox"/> 床が傾いている場所がある。		
	<input type="checkbox"/> 歩くと床が揺れる場所がある。		
	<input type="checkbox"/> 建具の建て付けが悪くなっている場所がある。		
	<input type="checkbox"/> 雨漏りしている場所がある。		
	<input type="checkbox"/> 柱、梁で腐っている場所がある。		
	<input type="checkbox"/> その他気になる場所がある。		

【聞き取り調査チェックリストの記入要領】

筋かいの有無

- ・図面に筋かいが記入されていない場合、または、図面のない場合は申込者の記憶をもとに記入する。
- ・不明な場合は当該部分にチェックを入れ、できれば天井裏、床下等を調べて筋かいの有無を調査し、存在を確認出来ない場合は、筋かいは入っていないにチェックを入れる。

土塗り壁の有無

- ・土塗り壁の有無、厚さについて聞き取りチェックを入れる。

基礎形式

- ・本診断においては鉄筋の調査は行わないので、申込者の記憶、また設計図書等をもとに鉄筋の有無を確認する。
- ・鉄筋の有無が不明の場合は無筋コンクリート基礎として扱う。

白蟻

- ・白蟻の被害とそれにどう対処したかを聞き取る。
- ・対象住宅で白蟻を見たことがある場合は、「白蟻被害をうけている」とする。

地盤状況

- ・敷地造成前後の状態を確認する。
- ・特に、海、川、池、沼の埋立地かどうか、また、敷地や擁壁にひび割れがないかを確認する。

地形の状況

- ・過去の山・崖崩れの状況・地すべり・地盤沈下の状況について確認する。

その他事項

- ・チェックの入った項目の事象を確認して、老朽度調査や地盤の判定に反映させる。

地盤・地形状況の特定

- ・依頼者の記憶及び周辺の状況調査をもとに、診断員の判断で、地盤状況を特定する。

地盤・地形状況の特定

聞き取り調査、付近の地盤図を参考にして診断技術者が判断する

地盤	良い	<input type="radio"/> 1 洪積台地または同等以上の地盤
		<input type="radio"/> 2 設計仕様書のある地盤改良（ラップル、表面改良、液状改良）
		<input type="radio"/> 3 下記以外の地盤
	普通	<input type="radio"/> 4 30mよりも浅い沖積層
		<input type="radio"/> 5 埋立地及び盛土地で大規模な造成工事（転圧・地盤改良）によるもの
悪い	<input type="radio"/> 6 30mより深い沖積層（軟弱層）	
	<input type="radio"/> 7 海・川・池・沼・水田等の埋立地 丘陵地の盛土地で小規模な造成工事によるもの	
	<input type="radio"/> 8 液状化の可能性のあるところ	
地形	平坦 普通	<input type="radio"/> 1 がけ地・急傾斜地以外の地盤
		<input type="radio"/> 2 コンクリート擁壁が施されている。
	がけ地 急斜面	<input type="radio"/> 3 石積みが施されている。
		<input type="radio"/> 4 特別な対策を行っていない。

伝統構法住宅チェックリスト

<input type="checkbox"/>	戦前に建てられた住宅で、各部屋との間仕切りが襖など建具で仕切られたいわゆる「田の字」平面をなし、(地震に耐える)壁が少なく、太い柱や太い梁及び垂れ壁で開放的な空間を形成しているもの。		
<input type="checkbox"/>	柱は14cm以上である	柱寸法	cm

【伝統構法住宅チェックリストの記入要領】

- ・ と のいずれかにチェックが入った場合については、診断対象外の伝統構法住宅である旨を説明し、診断業務を終了する。

老朽度のチェックリスト

(1) 外部

部位	材料、部材等	存在部位	劣化事象						
屋根葺き材	金属板	<input type="checkbox"/>	変退色	さび	さび穴	ずれ	めくれ		
	瓦・スレート	<input type="checkbox"/>	割れ	欠け	ずれ	欠落			
樋	軒・呼び樋	<input type="checkbox"/>	変退色	さび	割れ	ずれ	欠落		
	縦樋	<input type="checkbox"/>	変退色	さび	割れ	ずれ	欠落		
外壁仕上げ	木製板、合板	<input type="checkbox"/>	水浸み痕	こけ	割れ	抜け節	ずれ	腐朽	
	窯業系サイディング	<input type="checkbox"/>	こけ	割れ	ずれ	欠落	シール切れ		
	金属サイディング	<input type="checkbox"/>	変退色	さび	さび穴	ずれ	めくれ	目地空き	シール切れ
	モルタル	<input type="checkbox"/>	こけ	0.3mm以上の亀裂		剥落			
露出した躯体		<input type="checkbox"/>	水浸み痕	こけ	腐朽	蟻道	蟻害		
上記のほか、老朽していると思われる部位及び劣化事象									

【老朽度のチェックリストの記入要領】

- ・ 現地調査の結果に従って、各項目毎に存在する部位及び該当する劣化事象の部分にチェックを入れる。
- ・ チェックリストの各部位について、(様式11)劣化度による低減係数Dの各欄に転記する。
(各部位において劣化事象に1箇所でもチェックが入れば、低減係数Dの算定における劣化点数にチェックを入れる)
- ・ 何箇所チェックを入れてもよい。

(2) バルコニー

部位	材料、部材等	存在部位	劣化事象						
手すり壁	木製板、合板	<input type="checkbox"/>	水浸み痕	こけ	割れ	抜け節	ずれ	腐朽	
	窯業系サイディング	<input type="checkbox"/>	こけ	割れ	ずれ	欠落	シール切れ		
	金属サイディング	<input type="checkbox"/>	変退色	さび	さび穴	ずれ	めくれ	目地空き	シール切れ
	外壁との接合部	<input type="checkbox"/>	外壁面との接合部に亀裂			隙間	緩み	シール切れ・剥離	
床排水		<input type="checkbox"/>	壁面を伝って流れている			排水の仕組みが無い			
上記のほか、老朽していると思われる部位及び劣化事象									

(3) 内部

部位	材料、部材等	存在部位	劣化事象						
内壁	一般室	内壁、窓下	<input type="checkbox"/>	水浸み痕	はがれ	亀裂	カビ		
	浴室	タイル壁	<input type="checkbox"/>	目地の亀裂		タイルの割れ			
		タイル以外	<input type="checkbox"/>	水浸み痕	変色	亀裂	カビ	腐朽	蟻害
床	床面	一般室	<input type="checkbox"/>	傾斜	過度の振動		床鳴り		
		廊下	<input type="checkbox"/>	傾斜	過度の振動		床鳴り		
	床下	基礎	<input type="checkbox"/>	亀裂					
		床下部材	<input type="checkbox"/>	腐朽	蟻道	蟻害			
上記のほか、老朽していると思われる部位及び劣化事象									

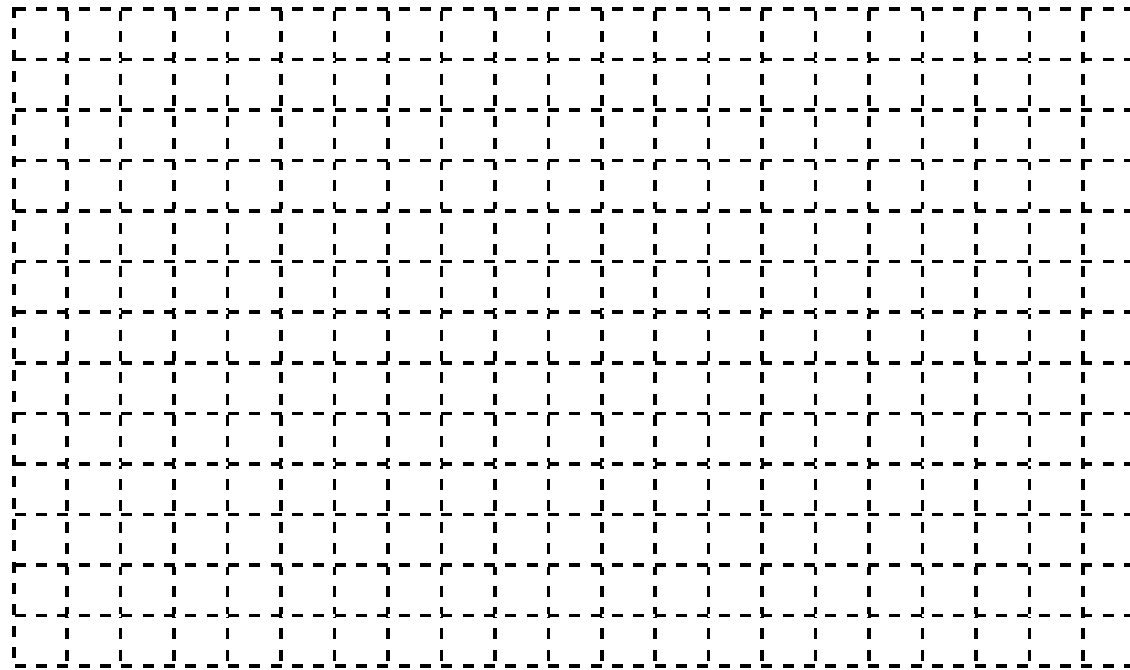
平面図

壁の位置・仕様を平面図に記入します。また、壁の両端の柱の柱頭・柱脚の接合の仕様も記入します。

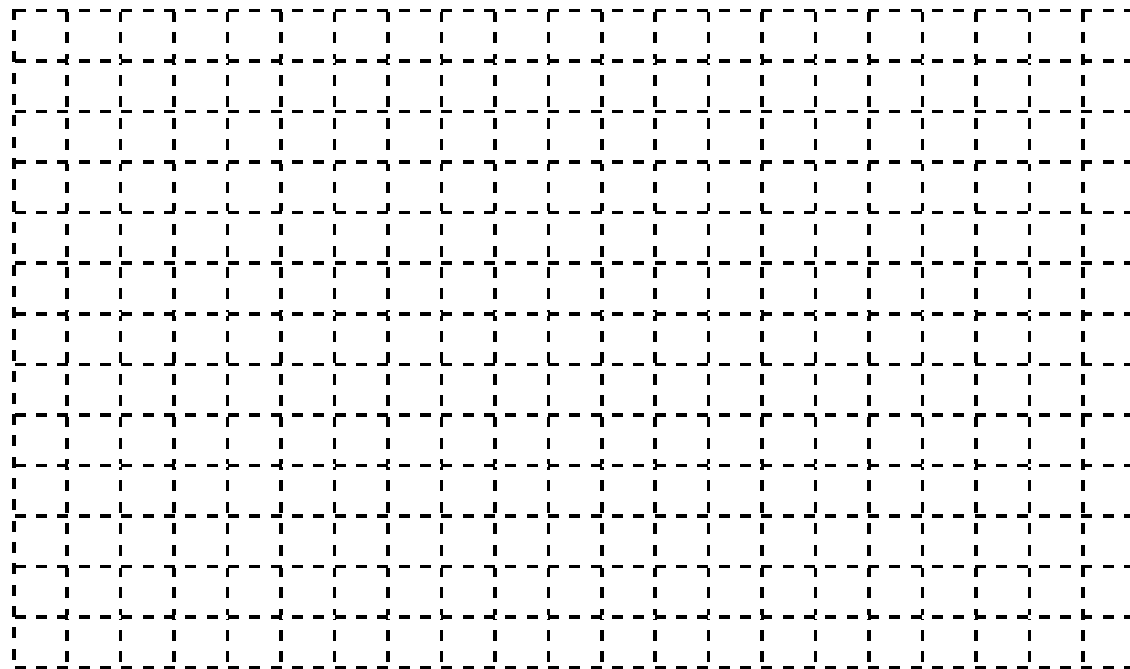
上階が部分的にしかない場合は、わかるように上階の位置を斜線で示します。

平面図中には、X方向・Y方向の全長の1/4に線を引きます。

柱頭・柱脚の仕様:



平面図(1階)



平面図(2階)

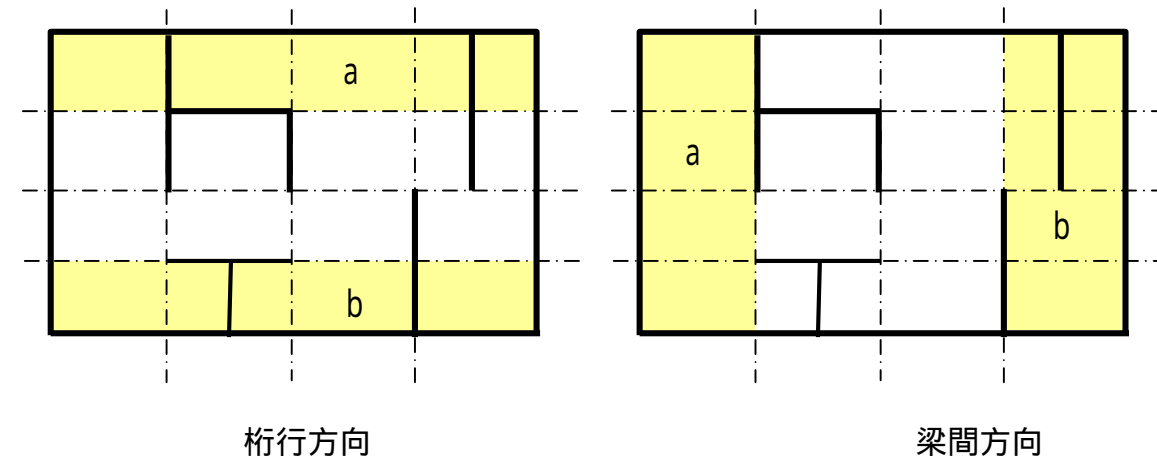
【平面図の作成要領】

・建物各階の平面図を記入します。耐震診断では、特に方向別の壁の長さが重要であることから、壁を太線で記入しその仕様を書き込みます。

・部分的に上階がある場合は、上階との関係がわかるように、上階の位置を記入します。

・平面図には、耐力壁端部の柱の上下の接合部の仕様を記入します。

・「耐震要素の配置等による低減係数 E」の計算のために、建物の梁間方向（Y方向）、桁行方向（X方向）の全長を4分割し、それぞれ、梁間a、b、桁行a、bと範囲分けします。



建物概要

整理番号等	市町名:	受付年度:	年度	受付番号:
建物名称 (建築主名)				
所在地(住所)				
竣工年月日				
建物仕様				
地域係数 Z				
軟弱地盤割増				
形状割増係数				
積雪深さ	(m)			
積雪	Z			
基礎形式				
床仕様				

【作成要領】

該当箇所に市町村名、市町村受付年度、受付番号を記入する。
 建物の名称を記入する。(建築主氏名 - 邸 住宅 等)
 建物の所在地を記入する。(市 町 丁目 - 等)
 竣工年を記入します。

築年数が10年以上と10年未満で「劣化度による低減係数」の計算方法が異なります。
 補助事業においては、10年以上を検討することとなります。

「軽い建物」「重い建物」「非常に重い建物」が実状に沿って分類します。
 建物の仕様によって、「必要耐力」の値が異なります。
 屋根の仕様、壁の仕様が判断の目安になります

所在地によって「地域係数Z」を記入します。(愛媛県=0.90)
 地盤の悪い地域の場合には、「1.5」を記入し「必要耐力」を割り増します。
 建物の短辺の幅が4.0m未満の場合は、「1.13」を記入し、「必要耐力」を割り増します。
 多雪区域では積雪深により「必要耐力」が割り増されます。
 積雪1mのとき「0.26Z」、積雪2mのとき「0.52Z」となり、積雪1～2mのときは、直線補間します。
 ただし、雪下ろしの状況に応じて、積雪深を1mまで減らすことができます。

基礎の形式によって、上部構造の性能を十分に発揮できない場合があります。
 下の番号から、あてはまる基礎の仕様の分類を記入します。
 壁の耐力算定時に「接合部による低減」で使用します。

【基礎形式の分類】
 健全な鉄筋コンクリートの布基礎又はべた基礎
 ひび割れのある鉄筋コンクリートの布基礎又はべた基礎無筋コンクリートの布基礎
 柱脚に足固めを設けた玉石基礎
 その他の基礎

床の仕様は、耐震要素の配置が偏った建物で力が特定の部分に集中する可能性があります。
 下の番号から、あてはまる床の仕様の分類を記入します。

「耐震要素の配置等による低減」で使用します。

合板
 火打ち+荒板
 火打ちなし

必要耐力の算出

	床面積 (m^2)	床面積あたり 必要耐力 (kN/m^2)	積雪用 必要耐力 (kN/m^2)	地域係数 Z	軟弱地盤 割増係数	形状 割増係数	必要耐力 Q_r (kN)
3階							
2階				0.9			
1階							

耐力要素の配置等による低減係数用必要耐力

(梁間a)

	床面積 梁a (m^2)	床面積あたり 必要耐力 (kN/m^2)	積雪用 必要耐力 (kN/m^2)	地域係数 Z	軟弱地盤 割増係数	形状 割増係数	必要耐力 Q_r (kN)
3階							
2階				0.9			
1階							

(梁間b)

	床面積 梁b (m^2)	床面積あたり 必要耐力 (kN/m^2)	積雪用 必要耐力 (kN/m^2)	地域係数 Z	軟弱地盤 割増係数	形状 割増係数	必要耐力 Q_r (kN)
3階							
2階				0.9			
1階							

(桁行a)

	床面積 桁行a (m^2)	床面積あたり 必要耐力 (kN/m^2)	積雪用 必要耐力 (kN/m^2)	地域係数 Z	軟弱地盤 割増係数	形状 割増係数	必要耐力 Q_r (kN)
3階							
2階				0.9			
1階							

(桁行b)

	床面積 桁行b (m^2)	床面積あたり 必要耐力 (kN/m^2)	積雪用 必要耐力 (kN/m^2)	地域係数 Z	軟弱地盤 割増係数	形状 割増係数	必要耐力 Q_r (kN)
3階							
2階				0.9			
1階							

【作成要領】

平面図から、各階の床面積を計算し記入する。

建物の仕様(重い建物・軽い建物・非常に重い建物)と階数から、「耐震診断要領 2 耐震診断要領」表2-4により床面積あたりの必要耐力を選択し記入する。

積雪用必要耐力、地域係数(愛媛県 = 0.90)、軟弱地盤割増係数、形状割増係数を記入する。

(軟弱地盤、形状割増係数については、「耐震診断要領 2 耐震診断要領 4 - 1) 上部構造の評価を参照)

必要耐力 Q_r を計算し記入する。

上記 ~ と同様に、梁間a、b、桁行a、b部分の必要耐力を計算します。

強さの算定 階・方向(X,Y)別を記入

? 階 ? 方向

桁行・梁間別 場所別	壁強さ 倍率 C (kN/m)	接合部 耐力低減 f	壁長 L (m) 柱本数 (本)	Pwi (kN) Pei (kN)	Pw = Pwi	Pe 0.25Qr	P Pw+Pe
		×	×	=			
		×	×	=			
		×	×	=			
		×	×	=			
壁の仕様別に記入		×	×	=			
		×	×	=			
計							

? 階 ? 方向

	壁強さ 倍率 C (kN/m)	接合部 耐力低減 f	壁長 L (m) 柱本数 (本)	Pwi (kN) Pei (kN)	Pw = Pwi	Pe 0.25Qr	P Pw+Pe
		×	×	=			
		×	×	=			
		×	×	=			
		×	×	=			
		×	×	=			
		×	×	=			
計							

【作成要領】 各階、各方向ごとに「強さ」を算出します。

1つの壁の外側・両側、筋かいの仕様を調査してその仕様を記入する。
 ただし、筋かいは図面または目視で確認できた場合のみ記入する。
 各壁の仕様ごとに「耐震診断要領 2耐震診断要領」表2 - 6により「壁強さ倍率C」を記入します。

外壁、内壁、筋かいの「壁強さ倍率」を足し合わせ、一枚の壁の「壁強さ倍率C」を計算し記入する。
 一枚の壁の「壁強さ倍率C」と、柱接合部の仕様、基礎形式の組み合わせから、表2 - 5により「耐力低減係数」を選択し記入する。
 平面図から各壁の無開口壁の長さを積算し記入する。「耐震診断要領 2耐震診断要領」4 - 2) 保有する耐力の算出(1)-(b)壁長を参照。
 各壁ごとに、「壁強さ倍率」、「接合部耐力低減」、「壁長」を掛け合わせ、各壁の耐力を計算し記入する。

仕様の分からない壁は、壁強さ倍率1.96とする。
 両端1/4部分と中央部分に分けて、各壁の耐力の和を計算する。
 その他の耐力要素として、桁行a・bの範囲の必要耐力の0.25倍を計算し記入する。
 両端1/4部分の「壁の耐力」と「その他の耐力要素の耐力」の和を求め「強さ」として記入する。
 桁行方向すべての「壁の耐力」を積算し、合計欄に記入する。
 「必要耐力Qrの0.25倍を「その他の耐震要素の耐力」として記入する。
 「壁の耐力」と「その他の耐震要素の耐力」の和を求め、「強さ」に記入する。

同様に各階・各方向の「強さ」を求めていきます。

耐力要素の配置等による低減係数 E						
床仕様						
			必要耐力 Qr	保有耐力 P=Pw+Pe	充足率 (P / Qr)	配置による 低減係数 E
3F	X方向	桁行a				
		桁行b				
	Y方向	梁間a				
		梁間b				
2F	X方向	桁行a				
		桁行b				
	Y方向	梁間a				
		梁間b				
1F	X方向	桁行a				
		桁行b				
	Y方向	梁間a				
		梁間b				

【記入要領】
 床面、屋根面の仕様を記入する。
 各階の梁間a、b、桁行a、bの必要耐力を記入する。
 各階の梁間a、b、桁行a、bの保有耐力を記入する。
 各階の梁間a、b、桁行a、bにおいて、充足率を計算し記入する。
 各階について、a、bの充足率と床仕様から、耐力要素の配置等による低減係数を表2-7により算出し、記入する。
 老朽度のチェックリストによりチェックした項目(存在部位、劣化事象等)毎に存在点数・劣化点数を求め、チェックを入れる。
 各存在点数、劣化点数を合計し、劣化度による低減係数を算出する

劣化度による低減係数 D

部位	材料・部材等	劣化事象	存在点数		劣化点数	
			築10年未満	築10年以上		
屋根葺き材	金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある				
	瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	
樋	軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	
	縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	
外壁仕上げ	木製板・合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある				
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある				
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 4	
	モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある				
露出した躯体		水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	
バルコニー	手すり壁	木製板・合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある			
		窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある		<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1
		金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れ・剥離がある			
	外壁との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ、剥離がある		<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1	
床排水		壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い		<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1	
内壁	一般室	内壁・窓下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2
	浴室	タイル壁	目地の亀裂、タイルの割れがある			
		タイル以外	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2
床	床面	一般室	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2
		廊下	傾斜、過度の振動、床鳴りがある		<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1
	床下		基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2
合計			0			

劣化度による低減係数 D $1 - (\text{劣化点数} / \text{存在点数}) =$

上部構造評点算定表

階	方向	強さ P (kN)	配置 E	劣化度 D	保有する 耐力 Pd (kN)	必要耐力 Qr (kN)	上部構造 評点
3F	X						
	Y						
2F	X						
	Y						
1F	X						
	Y						

【記入要領】

これまでに各階、各方向で算出した「強さ」、「耐力要素の配置等による低減係数」、「劣化度による低減係数」を記入する。

「強さ」、「耐力要素の配置等による低減係数」、「劣化度」を掛け合わせ、「保有する耐力」として記入する。

各階、各方向の「必要耐力」を記入する。

「保有する耐力」/「必要耐力」を計算し、上部構造評点として記入する。

すべての階のすべての方向の上部構造評点のうち、最小の値が、この住宅の上部構造評点になります。